

1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0370200354
法人名	医療法人孝仁会
事業所名	グループホームすまいる2号館
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市大字崎鎌ヶ崎第9地割大石39番70号 (電話) 0193-65-1211

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	〒020-0015 岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	1月9日

【情報提供票より】(19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名				
年齢	平均 82歳	最低	75歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立宮古病院・宮古第一病院・伊藤歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にあり、建物が道路に面しているため、どの居室も明るい。共用の場所は、吹き抜けの天井・大きな窓に囲まれ非常に明るく気持ちがいい。遠くに海・これから紅葉を迎えようとしている風景が眼に入り、生活感・季節感を感じさせる造りである。理念にある、利用者の人格を尊重し、その人らしく生活できるように、「できることを伸ばし、できないことは無理をさせない」をモットーに、個性を大切に自由に過ごしてもらい、利用者の立場に立った、必要とする適切なサービスの提供を心がけている。職員は明るく生き生きとし、利用者の表情も良く自分の得意とすることをやりながら、家庭に居るときと同じような生活をしているように見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、平成19年2月21日の調査での課題2点は、取り組まれ改善されている。利用者の個人情報に関わる記録物は、人目に触れないように、扉の付いた書庫に収められ、事故防止に関しては、事例を基に消防署・警察署を巻き込んだ勉強会を実施して、アドバイスをいただき、マニュアルを作成し活用している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に当たって、事前に調査用紙を配布、期限を決めて回収、後日、カンファレンスを開き、全員の意見を聞いて作成されている。条例や調査の趣旨・必要性を共有する機会になったという意見も聞かれ、更に、その過程をGH協会で発表し、自己啓発に繋げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に会議を行い、事業所からの報告・課題・要望に対して、皆さんから参考意見をいただいている。特に、無断外出した事例に関しては、消防署・警察署の方と一緒に勉強会をして、貴重な具体策を示して頂き、それを基にマニュアルを作成し活用されている。市の担当者には、事業所で困難な相談を早めに持ちかけ、利用者の便宜を図ることができ助けられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会に関して、家族にアンケートを実施し、「家族の負担が増える」という声もあり、家族会は設けていない。家族や面会者が頻繁に来訪して情報交換しているため、特に問題はなかったが、ある家族から、「管理者となかなか会えない」と言われ、双方で話し合い、携帯電話での対応でうまくいっているケースがあり、不安・心配事の解消になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	グループホームが、交流の場となり、地域の行事等にも参加しやすい。中学生の体験学習を機に、登下校時のあいさつや、栗を持っての訪問があったり、近所の子供だけで留守番しているような家庭では、逆に、「何かあったらGHに駆け込んで」と当てにされているといった、いい関係が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すまいる2号館の理念を基に、日課は決めず人生観を尊重して、その人らしく生活できるように「できることを伸ばし、できないことは無理をさせない」をモットーにその人らしさ・個性を大切に利用者のペースで過ごしてもらっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、見えやすい共用の場にも掲示して、業務に当たるときは、いつも目にし頭の中で考えながら、利用者の体調に注意して関わっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入しているため、一般家庭と同様に回覧板も廻り、それを地区の民生委員に届けることで情報交換にもなっている。地域のことは全てわかり、地域活動にも参加しやすい状況になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たって、事前に調査用紙を配布、期限を決めて回収、それを基に管理者がまとめて、後日、カンファレンスで検討するといった段階を踏んだ取り組みをしている。調査の趣旨・必要性を解ってもらい、取り組み状況を協会で発表することで自己啓発にも繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は定期的に行い、いろいろ、参考意見をいただいている。例えば、無断外出者の事例検討を行い、消防署・警察署の方からの具体策を基に、マニュアルを作成したり、勉強の機会にもなっている。また、避難訓練時に困り、要望して外灯を整備するに至ったこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所で困難な事例の相談等は、関係機関に働きかけ、早めに対処してもらっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な広報の他に、家族には、毎月、ホーム便りとして、個別に利用者の様子を知らせている。それを活用し、家族からの意見・要望等通信にも使っている。職員の異動もオープンにしているが、混乱を招いたことはない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを行った結果、家族の負担が増すということもあり、家族会は設けていない。ある家族から、「管理者とタイミングが合わずなかなか会えない」と言われ、双方で検討し、携帯電話で対応することで不安の解消になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚・出産等でやむを得ないこと以外は、法人に話し、異動は最小限にしてもらっている。これまでの異動に関しては、利用者に影響を及ぼしていない。緊急事態で、法人に応援をお願いすることはあるが、以前勤務したことのある職員に対応していただいたので、利用者も違和感なく溶け込んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画・次期管理者の基礎研修・入職間もないスタッフのOJT等、段階に応じた研修計画をしている。職員も意欲的に受講して、研修状況は、個々の研修ファイルで管理され、片寄りがないように配慮している。サービスの質の向上のためにも、職員自ら研修の必要性を感じ、更に、受講することにより仕事へのやりがいに繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会にも加入し、研修・情報交換・事業内容の取り組みの発表をする等、自己啓発・サービスの質向上に結び付けている。発表することにより、他の事業所にも刺激を与え、同業者間の交流は、積極的に行われていると思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心できるように、事前に訪問・見学していただくようにしているが、不可能な場合、ケアマネージャーに動いてもらい、利用者・家族と相談しながら進めている。利用者・家族にとっても、ケアマネージャーの関わりは、話しやすく安心もできる、いい方法と思われる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意向・ペースに合わせることを心がけ、買い物・食事の準備・洗濯等、一緒に行き、教えられたり・教えたりと楽しみながら行っている。職員の年齢構成もよく、利用者と自然に会話ができいて、「認知症」を感じさせない雰囲気がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア計画作成時に、ケアマネージャーからファーストシートを頂き、更に家族・本人の意向を聴いて検討し、その人らしい生活ができるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	外部評価項目14項と同様で、更に、「できること・できないこと」をスタッフが詳細にチェックしている。訪問日に、誕生者の方へ家族の面会があり、一緒にいいひと時を過ごされていて、利用者のいい笑顔を見ることが出来た。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員全員でカンファレンスを行い、見直しをすると共に、三ヶ月に一回総合評価をし、現状に合わせた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が、「一緒に過ごしたい」と言って、利用者の居室に宿泊したことがある。要望には随時、対応できるようにしている。多機能性を持つ事業所を目指し検討を重ねているのは今後の支援に期待出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、殆んど主治医に対応して頂き、月一回の受診、場合により2週間に一回の報告等、個々に合った適切な医療が受けられるように支援している。管理者が看護師でもあり、主治医とのコンタクトが取りやすく、信頼されている状況にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、事業所の方針を詳しく説明し、家族・利用者からもアンケートを取って、どうしたいのかを伺っている。これまで扱ったケースは無いが、研修会での参考資料を活用して、現状と合わせた検討が必要と考えている。利用者・家族の意向に合わせて、職員の知識・技術不足によるストレスも考慮しながら、検討されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務を忘れず、個人の記録物は見えない場所に保管、プライバシーを損ねないような言葉遣い・声のトーン・タイミング等、個性を把握し配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に、その日のスケジュールは決めずに、希望を聞きながら天候・利用者の意向で決めることもある。管理者が看護師でもあり、体調に気配りしながら支援している様子がうかがえる。誕生会の名目で月一回の外食を計画、利用者から「今度はどこにする？回転寿司？〇〇ラーメンも良かったね？」等、和やかな雰囲気話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に合わせて、職員と利用者が買い物からスタート、食材、その時の価格等によって変更することもある。また、当番になったとき、「何食べたい」と希望を取ることもある。職員と一緒に、食事の準備から片付けまで、利用者の得意とするパートを楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望時、いつでも入浴可能になっている。逆に、拒否する利用者の対応にも工夫し、個別性を重視して、言葉を選びタイミング良く促すように気配りしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意・好きなことを活かして、張り合いのある生活が出来るように、楽しみながら自由に過ごせるような支援をしている。魚のすり身・野菜きざみ・おやつ作り等、得意の分野を楽しんでやっており、褒め言葉にも喜んで素直に応える、微笑ましい姿から、利用者の思いを大切にしたい支援をされていることが感じられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、毎月の誕生会を兼ねた食事会、買い物等、希望に沿った内容を、利用者と共に考え楽しんでいる。家族同伴で、行きつけの美容院に出かけている方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭に居るときと同様の考えの基、日中は鍵をかけない、夜は、用心のためにも時間になったら施錠するといった、利用者が納得できる方法で行い、特に問題はない。利用者から、「泥棒が入るから鍵をかけて」といった声があるように、根拠のある対応が、定着している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して、役割分担に沿った訓練の実施、地域に緊急事態発生時のサイレンの訓練もして、協力は得られている。夜間想定訓練も行っている。逆に、災害発生時の一時避難場所にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成後、隣の「ほほえみの里」の栄養士に、カロリー計算をして貰い、バランスの取れた食事を心がけている。水分摂取は、過不足がないように、いつも使用しているコップ・お椀で計量し、補給して貰い、夏場はスイカ等の果物で代用するなどの工夫をしたりしている。おやつを含め、トータル的に水分量のチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特に、居間・台所・食堂は、吹き抜けの天井・窓が大きく非常に明るく、見通しも良く、スペース的にもゆったりしている。適度に花・絵・コメント付きの写真が飾られ季節感もあり、ほのぼのとした気持ちにさせられる。行事以外の時にもアルコール類を出して、飲食物でも生活感・季節感を味わえるように、利用者の要望に応じている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭と同じような環境で生活できるように、愛用の筆筒の持ち込みや洗濯物をかけてたりと、個々の好みに合わせた環境になっている。引きこもりを避ける意味でも、テレビの持ち込みはすすめていない。		